MCP × GA4 スタートガイド 完全版

モジュール5
よくある質問と落とし穴

導入前の不安と、導入後の「これどうするの？」に先回りで答える

10
Q&A収録
（導入前5＋運用5）

0円〜
費用の内訳を
正直に説明

図解
データの通り道を
ことばで図解

第4版（v1.3）

HAPPY ANALYTICS ／ ga4.guide
2026年7月発行　※ MCP・Claude Desktop の仕様変更時は無償アップデートで対応します

導入前

始める前の5つの疑問

Q1 Claudeは無料プランでも使えますか？推奨プランは？

A. 無料プランでも動作します（2026年7月時点）。ただし日常的に使うなら有料プランを推奨します。

Claude Desktopと本書のローカルMCP接続は無料プランでも利用できます。まず無料で全ステップを完了し、動くことを確かめてから課金を判断する、で問題ありません。ただし無料プランは会話量の上限が低く、モジュール3の「毎朝のヘルスチェック＋月次レポート」といった日常運用にはすぐ足りなくなります。**業務で毎日使うならProプラン以上**が現実的です。プランの最新の内容と価格は claude.ai の料金ページでご確認ください。

Q2 Claude以外に費用はかかりますか？Google Cloudの課金が心配です

A. 本書の使い方の範囲では、Google Cloud側の費用は基本的にかかりません。

項目	費用	補足
Google Analytics Data API	無料	API自体に利用料はありません（過度な連続リクエストには回数制限あり）
Google Cloudプロジェクト	無料	プロジェクト作成・サービスアカウント・キー発行は無料です
Node.js／MCPサーバー	無料	オープンソースのソフトウェアです
Claude	無料〜	Q1参照。有料プランは月額課金

組織アカウントの環境によっては、API有効化の前提として請求先アカウントの登録（クレジットカード）を求められることがあります（→ モジュール2のエラー1-3）。登録＝課金ではありませんが、不安な場合はGoogle Cloudの「お支払い」→「予算とアラート」で予算アラート（例：100円）を設定しておくと安心です。

Q3 GA4側の権限は何が必要ですか？「閲覧者」しか持っていません

A. 使う段階と設定する段階で、必要な権限が違います。

- **サービスアカウント（機械側）に付与する権限：**「アナリスト」で十分です。「閲覧者」ではAPIからのデータ取得ができません（→ エラー3-3）
- **設定作業をする人間側の権限：**STEP5の権限付与の操作には、GA4プロパティの「編集者」以上（推奨は管理者）が必要です

あなたが「閲覧者」しか持っていない場合でも、あきらめる必要はありません。モジュール1のSTEP5のページをそのまま管理者に渡し、「このサービスアカウントにアナリスト権限を付与してください」と依頼すれば、**あなた自身の権限は閲覧者のままで運用を開始できます。**

Q4 会社のセキュリティポリシー的に大丈夫でしょうか？データはどこを通りますか？

A. 仕組みを正しく理解した上で、自社の基準に照らして判断してください。判断材料を全部書きます。

データの通り道：あなたが質問すると、PC内のMCPサーバーがGA4のData APIに直接アクセスしてデータを取得し、その結果をClaudeが受け取って回答を作ります。

```
あなたの質問 → Claude → あなたのPC内のMCPサーバー → GA4 Data API（Google）
回答 ← Claude ← 取得された集計データ
```

安心材料：

- 接続は**読み取り専用**です。ClaudeがGA4の設定変更・データ削除を行うことはできません（推奨設定でRunReport以外をOFFにすればさらに限定されます）
- 認証情報（秘密鍵）はあなたのPC内の設定ファイルにのみ保存され、会話には送信されません

正直に伝えるべき点：

- 取得された**集計データ自体は、回答を作るためにClaude（Anthropic社のサーバー）に送信されます**。「アクセス解析の集計値を外部AIサービスに渡してよいか」が、自社ポリシー上の判断ポイントです
- ただし、送信されたデータを**AIモデルの学習に使わせない設定**があります：Claudeの**「設定」→「プライバシー」**にある**「Claudeの改善にご協力ください」**のトグルを**オフ**にすると、以降の会話データはモデルの学習に使用されません。業務利用では**使い始める前にオフにしておく**ことを推奨します（設定変更後の新しい会話から適用されます。プランによって初期状態が異なるため、必ず一度ご自身の設定をご確認ください）
- そもそもGA4に氏名・メールアドレス等の個人情報を入れないことはGoogleの規約上の原則であり、それが守られていれば流れるのは匿名の集計値です

会社への説明には、この項をそのまま提出資料の下書きにしてください。

Q5 エンジニアではないのですが、本当にできますか？所要時間は？

A. できます。本シリーズはコードを書かない前提で設計されています。

作業は「画面のクリック」と「コピペ」だけで、プログラミングは一切ありません。目安時間は**60〜90分**（会社PCの権限申請がある場合はその待ち時間が別途）です。いちばん詰まりやすいのはSTEP9の設定ファイル編集ですが、モジュール1が1操作ずつ画面付きで案内し、詰まった場合もモジュール2の診断チャートが23パターンのエラーを網羅しています。**「動かなくても原因にたどり着ける」ところまで含めて商品**だとお考えください。

運用 使い始めてからの5つの疑問

Q6 複数のサイト（プロパティ）を切り替えて使いたい

A. 設定ファイルにサーバーを複数定義するのが確実です。

claude_desktop_config.json の `mcpServers` の中に、サイトごとに名前を分けて並べます（サービスアカウントは同じものを使い回せます。それぞれのGA4プロパティへの権限付与＝STEP5だけ、サイトごとに実施してください）：

```
{
 "mcpServers": {
  "ga4-corporate": {
   "command": "npx",
   "args": ["-y", "mcp-server-google-analytics"],
   "env": { "GOOGLE_CLIENT_EMAIL": "（共通）", "GOOGLE_PRIVATE_KEY": "（共通）",
        "GA_PROPERTY_ID": "111111111" }
  },
  "ga4-ec": {
   "command": "npx",
   "args": ["-y", "mcp-server-google-analytics"],
   "env": { "GOOGLE_CLIENT_EMAIL": "（共通）", "GOOGLE_PRIVATE_KEY": "（共通）",
        "GA_PROPERTY_ID": "222222222" }
  }
 }
}
```

プロンプトでは「ga4-ecのデータで〜」のようにサーバー名で指定すれば取り違えを防げます。モジュール3の#1（プロパティ名の確認）を会話の最初に打つ癖も有効です。なお、サイトごとにモジュール4のCLAUDE.md（プロジェクト）を分けておくと、前提の混線も防げます。

Q7 チームで使いたい。認証キー（JSONファイル）はメンバーに配っていい？

A. 原則は「キーは配らず、各自で発行」です。

技術的には同じキーを全員のPCに入れても動きますが、キーの共有は「誰がアクセスしたか」を区別できなくし、退職・PC紛失時に全員分の差し替えが必要になります。推奨は次の運用です：

- メンバーごとにサービスアカウントを分けて発行する（STEP3〜4を人数分。名前を claude-ga4-yamada のように分ける）か、少人数なら共有の判断を情報システム部門と決める
- 使わなくなったメンバーの鍵は、Google Cloudの「鍵」タブから削除する（即座に無効化できます）
- 分析の前提・ルールの共有は、キーではなく**モジュール4のCLAUDE.mdを共有する**ことで行う（チームの分析基準を1つに保つ方法として設計されています）

Q8 Claudeが出す数字はどのくらい正確？GA4の画面と合わないことがある

A. データソースはGA4のAPIそのものなので「Claudeが数字を創作する」ことは仕組み上ありませんが、画面と数%ズレることはあります。

ズレの主因は、データのしきい値・集計タイミング（直近24〜48時間は未確定）・指標定義の違いの3つで、これは仕様です（詳細と対処はモジュール2の第9章）。運用のコツは2つ：**比較・報告には確定済みの期間（3日以上前〜先月）を使う**こと、そして**数%のズレを許容する判断基準をチームで先に決めておく**ことです。分析の目的は数字を1桁まで一致させることではなく、意思決定に足る精度を確保することです。なお集計のもとになった条件が気になるときは「いま使ったディメンションと指標と期間を教えて」と聞けば、Claudeは取得条件を開示できます。

Q9 MCPやClaude、GA4の仕様が変わったらこの教材は使えなくなりませんか？

A. 仕様変更は今後も起こります。だからこそ本商品は「無償アップデート」を約束しています。

実際、本シリーズの初版時点ですでに2件の仕様変更に対応済みです（2026年4月のGA4権限付与の変更＝管理画面からのサービスアカウント追加が不可に、およびClaude DesktopのUI刷新）。対応の記録は各モジュール巻末の「更新履歴」に残しています。今後の運用は次の通りです：

- 仕様変更を確認したら更新版を作成し、**購入者に無償で配布**します
- お手元の資料と実際の画面が食い違ったら、まず更新履歴でお手元の版が最新かを確認してください
- 最新情報はga4.guideでも随時発信しています

Q10 うまく動かないとき、どの順番で調べればいい？

A. 調べる順番を1本化してあります。迷ったら次の順で。

- ① モジュール2巻頭の**総合診断チャート**（p.3）— セットアップ途中なら工程マップ、設定完了後なら接続テスト3ステップへ
- ② エラーメッセージが出ているなら、モジュール2巻末の**逆引き一覧**で直行
- ③ 「エラーは出ないが数字が変」なら、モジュール2の**第9章**
- ④ それでも解決しない場合は、症状・実行したプロンプト・エラーメッセージの3点を添えてお問い合わせください（窓口は同梱の案内に記載）

問い合わせの前に③まで進んでいただくと、回答が具体的になり解決も早くなります。

追加Q&A ウェビナーで多かった質問(v1.1で追加)

2026年7〜8月開催のウェビナー(5回・計500名)と、購入者の皆さまからのご質問から追加しています。

Q11 AIのモデルはどれを使えばいいですか？(Sonnet／Opusなど)

A. 本ガイドの分析範囲なら、標準的なモデル(Sonnet相当)で十分です。

指標・期間・条件を明確に指示した集計や比較は、モデルの差より**指示の具体性**が結果を左右します。上位モデルを検討する価値があるのは、長い文脈を踏まえた解釈・大量の資料を横断する分析・複雑なレポートの構成など「考えさせる」場面です。会社のルールで使えるモデルが決まっている場合も、まずはそのモデルで7日間プログラム(モジュール3)を進めて問題ありません。

Q12 有料プランはどれを選べばいいですか？

A.「まず無料で構築 → 毎日使うようになったら有料化」の順番で十分です。

目安として、毎朝のヘルスチェック+週次の確認程度なら標準の有料プラン、長時間の分析や大量のレポート作成を日常的に行うなら上位プランが候補になります。**料金と各プランの制限は改定されることがあるため、具体的な金額は必ずAnthropic公式の料金ページでご確認ください。**判断の軸は「無料プランの利用上限に、週に何回ぶつかるか」です。ぶつからないうちは無料のままで問題ありません。

Q13 MCP経由のデータは、サンプリングされていませんか？

A. 通常の使い方ではフルデータですが、条件により発生することがあります。

MCPが利用するGA4のAPIでは、シンプルな集計・短めの期間なら通常サンプリングは発生しません。一方、**期間が長い・ディメンションの組み合わせが複雑・データ量が非常に多い**場合には発生することがあります。数値が管理画面と微妙に合わないときは、期間を分割して聞き直すのが第一の対処です(「エラーは出ないのに数字が変」の一因として、モジュール2の考え方がそのまま使えます)。なお、厳密な非サンプリング分析が必要な規模になったら、それはBigQuery連携の領域で、本ガイドの範囲外です。

Q14 クライアントのデータをAIで分析するとき、契約面(NDA)は大丈夫ですか？

A. 技術的な安全性(Q4)とは別に、契約上の確認をおすすめします。

確認しておきたい観点は次のとおりです。①既存のNDA・業務委託契約に、外部サービス(クラウド・AI)へのデータ投入を制限する条項がないか ②投入するデータの範囲(本ガイドの範囲では計測データのみで、氏名等の個人情報は通常含まれません) ③AI事業者側の学習利用の扱い(Claudeは学習に使わせない設定が可能です。Q4参照) ④データの保管・削除のルール ⑤再委託の扱いにAI利用が含まれるか。**本書は法的助言を提供するものではありません。**個別の契約への影響は、必要に応じて法務や専門家にご確認ください。クライアントへの説明には、Q4のデータフロー図とあわせて本Qの観点リストがそのまま使えます。

許諾の相談をするときは、権限を最小限にする案もあわせて示すと話が進みやすくなります。たとえば、閲覧者権限だけを持つ接続専用のユーザーを用意してもらう方法です。**許諾が得られない場合**は、MCPでの接続はせず、GA4から集計済みのデータをエクスポートし、個人を特定できる情報を含まない形で貼り付ける運用にとどめてください。これまでエクスポートしたデータを貼り付けていた方は、その方法を続けるのも妥当な判断です。(v1.3で追記)

Q15 AIが出した数値は、そのまま信用してよいですか？

A. 取得された数値そのものは創作されません。注意すべきは「取り方」の方です。

MCP経由で返ってくる数値は、実際にGA4へ問い合わせた結果です。AIが数字を作っているわけではありません。実務上のリスクは別のところにあり、次の2点に集中します。

①**指標・期間・条件の解釈違い**——「先月」の範囲、キーイベントの定義、フィルタの当て方などを、こちらの意図と違う形で組み立ててしまう。②**取得後の加工での取り違え**——AIが要約したり、比率を再計算したりする過程での誤りです。

対処は4つです。

1. **集計条件を必ず出力させる**——「対象期間・使用した指標名・適用したフィルタも一緒に教えて」と添えるだけで、取り違えのほとんどは目視で発見できます。
2. **計算はAIに任せない**——合計や比率が必要なときは、生の数値を出させて、計算は表計算ソフト側で行う。
3. **1点だけ検算する**——出てきた数値のうち1つをGA4の画面と突き合わせる。全部を照合する必要はありません。1点のズレは、たいてい条件の取り違えを示します。
4. **定型化する**——毎月使う質問は同じ文面を使い回す。毎回組み立てさせないことが、最も確実な予防策です。

「全件を検算しないと使えない」と考えると運用が回りません。**条件の確認＋数点のサンプル照合**で十分に実用的です。

Q16 MCPでは「できないこと」もありますか？

A. あります。本ガイドの範囲でできるのは「集計して比較する」ことです。

期待のズレは「動かない」より深刻な不満につながるため、正直にお伝えします。

できること：指標×ディメンションの集計、期間比較、条件を組み合わせた絞り込み(例:「自然検索 かつ スマートフォン」)、チャネル別・ページ別・デバイス別などの内訳、直前にどのページから来たかの把握。本ガイドのモジュール3で扱う分析は、すべてこの範囲です。

できないこと：

- 期間をまたいだユーザー単位の抽出（例:「今月ページAを見て、かつCVした人」）
- セッション内のイベントの順序を条件にした抽出（例:「A→Bの順に見た人」）
- ファネル・歩留まりのシーケンス分析

これらは**BigQueryにデータをエクスポートして扱う領域**です（GA4の探索レポートでも一部は可能です）。「順序」「横断」「個人」が絡む分析は、最初からBigQuery側で設計してください。

ウェビナーでは、次のようなご質問をいただきました。いずれもこの「できないこと」に当たります。

- CVしたユーザーが、CVまでの1年間に何回訪問したかの分布
- 資料をダウンロードしたユーザーと、しなかったユーザーの再訪率の比較
- ページをどの順番で見ていったか(2ページ以上の遷移の流れ)

一方で、**頼み方を変えれば答えられるもの**もあります。「メルマガ登録の多い流入の上位・下位」や「メルマガ登録とCVの関係の傾向」は、集計で答えられる範囲です(並べる基準の書き方は、モジュール3の「プロンプトの4要素」のコツを参照)。見分け方は、**答えを出すのに「1人ひとりを追いかける必要があるか」**です。必要ならBigQueryの領域、不要なら本ガイドの範囲で答えられます。(v1.3で追記)

なお、実現できない依頼をAIに投げると、それらしい答えが返ってくることがあります。上記に当てはまる依頼をしたときは、返ってきた内容を鵜呑みにせず、何を集計した結果なのかを確認してください。

Q17 パソコンを買い替えたら、また設定し直しですか？

A. はい。認証情報はパソコンごとに保存されているため、再設定が必要です。

「Claudeも Googleアカウントも同じだから、そのまま使えるのでは」と思われがちですが、MCPの動作は**「どのアカウントか」だけでなく「そのパソコンに設定と認証情報があるか」**に依存します。

新しいパソコンで必要になるのは次の4つです。

- Claude Desktopのインストールと、設定ファイル（claude_desktop_config.json）の設置
- MCPサーバーの導入（初回は自動ダウンロードが走るため、数分かかることがあります）
- 認証情報の再設定——モジュール1の方式なら鍵情報の再設置、別冊（公式版）の方式なら `gcloud auth application-default login` の再実行
- 初回のブラウザ認証・権限承認

設定ファイルをコピーするだけでは動きません。ファイル内に書かれているのは「認証情報の場所」であって、認証情報そのものは別ファイルとして保存されているためです。またWindowsとMacではパスの書き方が異なります。

移行が終わったら、モジュール3の1本目を実行して疎通を確認してください。数値が返れば完了です。

Q18 クレジットカードの登録は必要ですか？

A. 本ガイドの範囲では不要です。BigQueryに進む場合のみ必要になります。

操作	カード登録
Google Cloudプロジェクトの作成	不要
GA4 Data APIの有効化・利用 （＝本ガイドで扱う範囲）	不要
GA4→BigQueryのリンク設定・エクスポート	必要
BigQueryでのクエリ実行（無料枠を使う場合も）	必要

BigQueryには無料枠（月1TBのクエリ処理・10GBのストレージ）がありますが、**その無料枠を使う場合でも請求先アカウントの登録が前提**となります。登録しても、無料枠の範囲内であれば課金は発生しません。

紐付け状況は、Google Cloudコンソール左メニューの「お支払い（Billing）」で確認できます。

くり返しになりますが、**本ガイドで解説している分析（GA4 Data API経由）にカード登録は必要ありません。**

Q19 GA4の画面と数値が合いません

A. 原因は3つあります。順に切り分けてください。

①**サンプリング**——期間が長い、条件が複雑、データ量が多い場合に発生します。判定方法は、AIに「サンプリングの有無も教えて」と添えること。対処は期間を分割して聞き直すことです。

②**カーディナリティ上限による「(other)行」**——値の種類が非常に多いディメンション（ページURL、キーワードなど）で発生し、上限を超えた分が「(other)」にまとめられます。こちらも「(other)行の発生有無も教えて」で判定できます。

③**しきい値処理**——Googleシグナルを有効にしている場合、ユーザー数の少ない行が非表示になることがあります。GA4管理画面のレポート識別子の設定を確認してください。

この3つは別物です。「エラーは出ないのに数字が違う」ときは、まず①と②をAIに確認させ、それでも説明がつかない場合に③を疑う、という順序が効率的です。

なお、GA4の画面側も「その日のうちは確定値ではない」点にご注意ください（データ処理に最大48時間かかる場合があります）。

追加Q&A 使い慣れてきた段階の質問(v1.3で追加)

2026年10月開催のウェビナーでいただいたご質問から追加しています。

Q20 1問ずつ聞くのと、最初から1本のプロンプトにまとめるのは、どちらがよいですか？

A. 慣れるまでは1問ずつ。やり方が固まったら、1本にまとめます。

1問ずつ対話すると、途中の結果を見て次の質問を変えられるため、精度も気づきも得やすくなります。モジュール3の7日間プログラムを1日1〜数本ずつ進める設計にしているのも、このためです。一方で、毎月同じ分析をするなら、毎回対話を重ねるのは手間がかかります。おすすめは次の3段階です。

1. **対話で固める**——1問ずつ深掘りしながら、見るべき指標・条件・期間を決める
2. **1本に書き出す**——固まった手順と出力の形を1本のプロンプトにまとめ、サイトの前提はCLAUDE.md(モジュール4)に書いておく
3. **実行して、人が確認する**——以降は1本を実行し、出てきたレポートを人が読んで、気になる点だけ追加で質問する

「まとめた1本で完成品を出させ、人は最後に確認する」という分担です。最初から1本にまとめようとすると、どの条件が結果を左右しているかが分からず、直しにくくなります。

なお、本ガイドはClaude Desktopのチャットで使うことを前提にしています。ファイルの読み書きや毎月の自動実行まで進めたい場合は、上位教材「MCP連携 分析AIプロンプト集【完全版】」の第13章(運用編)で手順を扱っています。

更新履歴 版の記録

版	発行日	主な内容
v1.0	2026年7月	初版発行。Q4にデータフローの説明と、モデル学習への利用を止めるプライバシー設定（設定→プライバシー）の案内を収録。
v1.1	2026年7月	ウェビナー(3回・計300名)の質問を反映し、追加Q&A章(Q11〜Q14:モデル選択／有料プランの考え方／サンプリング／契約面の注意)を新設。
v1.2	2026年8月	ウェビナー(計5回・500名)と購入者の質問を反映し、Q15〜Q19を追加(AIの数値の信頼性／MCPでできないこと／PC買い替え時の再設定／カード登録の要否／GA4画面と数値が合わない3つの原因)。
v1.3	2026年11月	2026年10月のウェビナーの質問を反映。Q20(1問ずつ聞くか、1本にまとめるか)を追加。Q14に許諾が得られない場合の代替策、Q16に実際の質問例と「頼み方で解決できるか」の見分け方を追記。

Claudeのプラン内容・プライバシー設定の名称・仕様の変更を確認した際は、購入者の皆さまに無償の更新版を配布します。

本書は「MCP×GA4 スタートガイド 完全版」のモジュール5です。セットアップはモジュール1、エラー対処はモジュール2、分析プロンプトはモジュール3、CLAUDE.mdテンプレートはモジュール4をご覧ください。

© HAPPY ANALYTICS ／ ga4.guide